

## 平成 27・28 年度 佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価報告書に対する審議会意見について

### 基本目標① 安心して働き続けることができる佐久市における「しごと」の創生

報告書ページ

1	数値目標 市内事業所の従業者数	5
	従業員を増やすには、企業の新設とともに、既存の(優良)企業の存続も重要であるので、事業継承への総合的、継続的支援が必要ではないか。	
2	(1)地域産業の競争力強化 ア 市内企業の成長の支援	5
	国の統計調査の中には、結果の公表時期が遅いものもあるため、もう少し早期に足元で取れるような調査等をKPIIに取り入れるのも良いのではないか。	
3	(2)首都圏等からの人材還流および佐久市における人材育成・雇用対策 イ 技能・知識の獲得の支援	11
	「資格取得支援事業」の補助利用者が少ないのは、周知が十分でないためと考えられるため、事業の周知を強化されたい。	
4	(3)ICT等の利活用による地域産業の活性化 ア 民間企業等のICT活用による効率化と付加価値向上の促進	12
	サテライトオフィスの受け入れ体制が十分に整備されていないと、立地件数も伸びないため、体制整備や市の魅力のPR等に引き続き取り組んでいただきたい。	

### 基本目標② 多くの人に選ばれることができる佐久市における「ひと」の創生

5	(1)移住・交流の促進 イ 移住定住促進のための体験機会の提供と経済的支援	14
	移住・交流施策の推進に当たっては、ただ人口を増加させればよいというわけではなく、移住する皆さんに納得していただけるような取組を進めていくことが大事になるのではないか。	

6	(2)企業等の誘致、企業等による地方採用・就労の拡大 ア 企業や政府関係機関の誘致	15
	企業誘致による市人口の社会増を図るためにも、新たな工業団地を早く造成していただきたい。	
7	(3)若者の市内企業への就職促進と人材育成 イ 学生等への市内企業のPR支援	17
	若者の市内企業への就職促進に当たっては、働く場所に魅力を感じられるかどうか重要。佐久市は自然環境も豊かで、通勤等においても交通網が整備されており、利便性が高い。このような特徴を強く打ち出したPRをすると良いと思う。	

基本目標③ 安心して結婚し、子どもを生み育てることができる佐久市における「ひと」の創生

8	数値目標 合計特殊出生率 「合計特殊出生率」の目標値達成を目指すに当たり、市として引き続き啓発等施策を展開する必要があるほか、企業においても仕事と家庭の両立など意識改革が必要。	19
	数値目標 合計特殊出生率 最近の医療の進歩等もあるが、実際子どもを生むことは容易な話ではない。「合計特殊出生率」の目標値達成を目指すに当たり、出産の適齢期についても周知をすること、また男性側の意識改革も必要であると考え。	
10	(2)結婚・恋愛・出産・子育ての切れ目のない支援 イ 安心して出産を迎えるための支援	21
	KPI「浅間総合病院における出産件数」について、市人口の自然増を目指すに当たって、病院環境は重要であるため、市全体の医療機関での出産件数を目標として設定するべきではないか。	
11	(3)子ども・子育て支援の充実 ア 乳幼児の心身の健康な育ちの支援	23
	KPI「おたふくかぜワクチンの任意接種費用助成事業を利用する1歳児の割合」について、自分の子どもの安全を守りたいと考える人は多いと思われることから、目安値及び目標値の設定が低すぎるのではないか。	

12	(3)子ども・子育て支援の充実 ア 乳幼児の心身の健康な育ちの支援	23
	総合戦略に記載する事業は、法律の義務により実施する事業よりも、市単独で実施している事業を記載すべきではないか。 (例:2歳児歯っぴー教室、妊婦さんの歯の教室 等)	
13	(4)仕事と生活の調和の実現 ア 希望するワーク・ライフ・バランスの実現の支援	28
	ワーク・ライフ・バランスの実現を目指すに当たり、市としてもっと踏み込んだ施策を展開すべきではないか。	
14	(4)仕事と生活の調和の実現 ア 希望するワーク・ライフ・バランスの実現の支援	28
	ワーク・ライフ・バランスについて、企業では様々な努力をされているところも多いと思われる。市としても施策展開に当たり、積極的に企業に出向き、どのような企業活動が行われているか、参考にすべきではないか。	

基本目標④ 安心して暮らし続けることができる佐久市における「まち」の創生

15	(1)持続可能な経済・生活圏の形成 ア 地域の特徴を生かした経済・生活の拠点の形成	30
	目標管理の手法として、まず長期的なビジョンがあって、次に短期的な目標を設定することが必要。総合戦略の目標値(平成 31年度)は5年後の短期的な目標であることから、長期的な目標値も併せて示した方が良いのではないか。	
16	(1)持続可能な経済・生活圏の形成 イ 地域交通ネットワークの整備	31
	KPI「『地域交通ネットワーク』についての満足度」について、公共交通の路線廃止等、満足度が下がる要因が見当たらない中で、数値が減少していくのであれば、現在取り組んでいる事業内容について、市民のニーズも踏まえながら検討を行う必要があるのではないか。	

17	<p>(1)持続可能な経済・生活圏の形成 イ 地域交通ネットワークの整備</p> <p>市民満足度に係るKPIIについて、満足度は地域性により割合が変動するものと思われるので、漏れなく地域に行き渡るよう調査等を実施するべき。</p>	31
18	<p>(2)人口減少を踏まえた既存ストックのマネジメント強化 イ 空き家等の利活用</p> <p>サテライトオフィスの誘致に当たっては、高速交通ネットワーク等市が持つ交通の利便性の高さをPRするべきだと思う。</p>	34
19	<p>(3)住民が地域防災の担い手となる環境の確保 ア ICT等を活用した災害時の情報共有の仕組みの構築</p> <p>ICTを活用した災害時の情報伝達に当たっては、媒体別・年代別利用者数の集計データを分析することで、それぞれに必要な伝達手段が分かり、より効果的に情報共有を図ることができるのではないか。 また、テレビの活用も考えるべきではないか。</p>	35